



中部大学工学部都市建設工学科
大学院工学研究科建設工学専攻
磯部 友彦 教授

土岐市地域公共交通活性化協議会の副会長。大学で教鞭をとる傍ら、愛知・岐阜県内を中心とした多くの自治体の交通関連会議の会長、委員を務める。地域交通政策や土木計画学、福祉のまちづくりが専門。

利用することが バスの存続を助けると いう意識も必要

1970年頃をピークに、路線バスの利用者数は、年々減少の一途をたどっています。都市部と郊外などで地域的な差はあるものの、これは日本全体が抱える深刻な問題です。

超高齢社会と言われる昨今ですが、65歳以上の高齢者の中でも比較的若年層の運転免許保有率は男女共に高く、バスやタクシーなどを差し迫って必要とする状況がまだ生まれていないという実態もあります。しかし、団塊の世代の方々が75歳を迎える2022年頃からは、公共交通に対する需要が急激に高まってくることが予想されます。

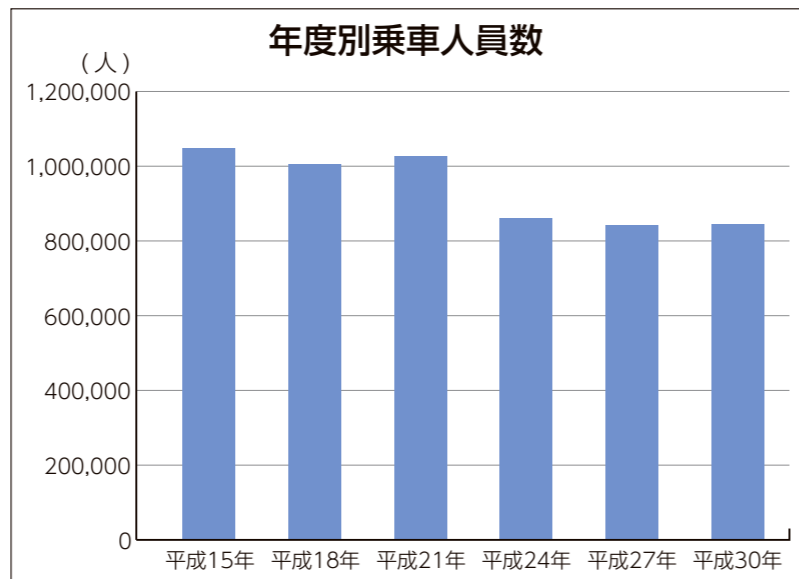
公共交通と向き合う上で、財政面での問題が一番にあがりますが、交通事業者や行政側に期待することは、やはり利用者のことを第一に考えた運営と言えます。一方で、わたしたち利用者としては、公共交通の抱える現状や問題を知り、可能な限り公共交通機関を利用することが、その存続を助けることにつながるという意識を持つことも大切です。

“移動”は目的ではなくあくまで手段であり、苦痛なものである場合がほとんどです。しかし、その中にゆとりや楽しみを見出すことも、これからの時代必要なことなのかもしれません。

バス利用状況の推移（路線バス）

右のグラフは、東濃鉄道(株)の年度別乗車人員数の推移を表したものです。路線の減便などによる影響もありますが、平成15年には約105万人あった乗車人員が、平成30年には、約84万人と15年間で約2割減少しています。

また、乗車人員の減少に伴い、運営状況も厳しいものとなっています。現在市内を運行する路線バスの収支は全て赤字となっています。国などの補助金などを受けてなんとか運行を維持していますが、その補助を受けるにも一定の条件があり、このまま乗車人員の減少が続けば、路線の維持が困難になる可能性もあります。



系統別輸送実績表より作成 提供：東濃鉄道(株)
※乗車人員は市内を運行する路線の合計で算出



公共交通の未来は

皆さん、近頃バスやタクシー、電車などの公共交通機関を利用しましたか。利用者の減少などにより、公共交通を取り巻く環境は全国的に非常に厳しいものとなっています。公共交通は私たちや次の世代の市民にとってどのような存在なのでしょう。今号では、公共交通のこれからについて考えてみます。

問 産業振興課 (☎541213)

CHAPTER 公共交通の現状 1

課題山積み、公共交通の今
モーターゼーション(自動車)が社会に広く普及している状態の進展や、近年の人口減少などを原因とした利用者の減少により、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。

市内の交通網の特徴
土岐市は、中央自動車道と東海環状自動車道の結節点として広域交通網に恵まれ、市内には土岐IC、土岐南多治見IC、五斗時スマートICと3つのICがあります。またJR中央線が通っており、名古屋圏へのアクセスも比較的便利な地域です。
一方、市内の公共交通に目を向けると、民間事業者の運行する路線バスやタクシー、市が運行する市民バスや予約あいのりタクシー「のってこ」が走っています。市民バスやのってこなどは、平成27年度に策定した「土岐市公共交通網形成計画」を踏まえて運行され、通勤、通学、通院、買い物など皆さんの日常生活に欠かせない移動手段の一つとなっています。

利用者の減少は運行の減便などサービスの低下を招き、それがさらなる利用者の減少を引き起こすという「負のスパイラル現象」につながっています。その影響で公共交通網が成り立たなくなる可能性もあり、利用者減少による収支悪化が原因で路線存続が困難となった鉄道やバス路線の増加は、近年全国的な社会問題となっています。特に大きな減収が続くバス事業は、当市においても決して他人事とは言えません。

市民バスとのつてことを合わせた利用者数は、年間約8万5千〜7千人で推移しておりほぼ横ばい傾向ですが、民間路線バスやタクシーの利用者数は減少傾向にあり、公共交通が十分に利用されていない状況が続いています。

CHAPTER
市民と考える
公共交通
2

市では、市民代表や交通事業者、行政機関らで組織する土岐市地域公共交通活性化協議会を定期的に開催しています。協議会では、地域公共交通網形成計画に掲げた4つの基本方針に基づき、地域にふさわしい交通づくりのための話し合いを重ねています。4つの基本方針として、「民間路線バスの利便性を高めること」「交通弱者一人一人の参画により、地域交通を作ること」「高校生の安心・安全な通学手段を確保すること」「利用促進に向けた関係者の役割明確化と連携強化を図ること」を掲げています。

例えば、高校生の通学手段の確保に関しては、市内公立高校の通学マップを作成し、毎年8月に実施される中学3年生向けの高校説明会の際に配布しています。また、土岐商業高校の生徒とワークショップを実施し、利用者目線から利便性の向上に向けた施策を一緒に考えるなどしました。利用促進に向けた取り組みとしては、幅広い年代の方々に公共交通に触れてもらう機会を増やすため、セラトピア土岐で実施される「福祉まつり」にブース出展し、子ども向けの写真撮影会などさまざまな催しを企画しました。

また、新たな取り組みとして、東濃鉄道と共同でクリスマスバスの飾り付けイベントを行いました。駄知小学校附属幼稚園の皆さんの協力のもと、バス車内をにぎやかなクリスマス仕様飾り付け、利用者の皆さんに温かい気持ちになってもらうと共に、バスにもなじみのない方にも興味をもってもらうための一つのきっかけとなりました。

市民参画による地域交通の構築に関しては、平成30年度から、駄知町において新たな交通体系づくりを進めています。詳しくは次頁で紹介いたします。



1 高校生とのワークショップの様子。「雨天時における運賃の割引」「バス停の待合環境の改善」など利用者目線での多彩な意見が出されました。
2 「福祉まつり」にブース出展した際の様子。運転手やガイドの制服を着ての記念撮影会や、バスやタクシーのペーパークラフト製作コーナーなどが人気を集め、ブースには200人以上の来場者が訪れました。
3 高校通学マップ。出身中学校別に細かなダイヤや乗り継ぎの時間、定期の料金などを掲載しています。
4 5 クリスマスバス飾り付けイベントの様子。画用紙や廃材などで手作りされたサンタクロスやトナカイなどの飾りが、車内をにぎやかに演出しました。



駄知町の新しい交通

駄知町では、平成30年4月より、町内会連合会にて公共交通検討委員会を立ち上げ、地域交通についての検討を進めています。

検討委員会は、町内会連合会や白寿会連合会、民生児童委員協議会の代表者らで組織され、町民の意見を反映した運行ルート・ダイヤについてほぼ毎月のように協議を重ね

てきました。検討の結果、運行が決まった駄知町民バス（仮称）は、買い物や通院、その他の用事で町内を移動する場合や、民間バスに乗り換えて、町外・市外へ出掛ける際の移動手段として、町民と市の協働により運行するものです。ルートは駄知町内を巡回するもので、町民の生活の足としての利用

のほか、バス内が一つのコミュニティの場、「地域のサロン」のような存在となることを目指します。

運行の時間帯は、平成29年度に実施した試験運行の結果から、利用者が極端に少なくなる午後の便をなくし、正午過ぎまでとしました。運賃収入や市からの補助金のほか、町内会連合会や町社会福祉協議会からの協力金などによる運営を予定しています。

町民バスの名称は公募により決定するほか、6月4日からの運行開始に向け、さまざまな準備を進めています。町民の方には別途、町内配布文書や、ホームページでルートや停留所、ダイヤなどの詳細をお知らせします。



検討委員会の様子。町民自らが中心となってルートや停留所の位置を考えます。



町民バスのデザインロゴ(案)。町を象徴するどんぶりをモチーフとし、模様に見える部分にはDACHIの文字が隠されています。

“移動手段”としてだけでなく
“楽しみを見つける手段”として

団塊の世代の後期高齢者への移行を控え、駄知町においても一段と加速する少子高齢化への危機感を強めています。そのような状況の中、この町民バスに期待することは、買い物や、医療・金融・行政機関への移動手段といった、日常生活で最低限必要な役割だけではありません。バスの車内自体がコミュニケーションの場となることはもちろんのこと、公民館や白寿苑、児童センターなどでのサークル活動、杉焼池や運動公園でのウォーキング、あるいは喫茶店や知人宅での語り、民間バスを乗り継ぐことでの町外・市外への外出と、自分の足で行動範囲を広げ、楽しみを見つける手段として、多くの可能性を秘めたものだと思っています。

始まりは十分な運行状況ではないかもしれませんが、利用が増えれば今後のさらなる改善も可能です。健康で安心安全の未来、町の活性化への期待を乗せた町民バスです。



駄知町町内会連合会 会長
山内 博文 さん

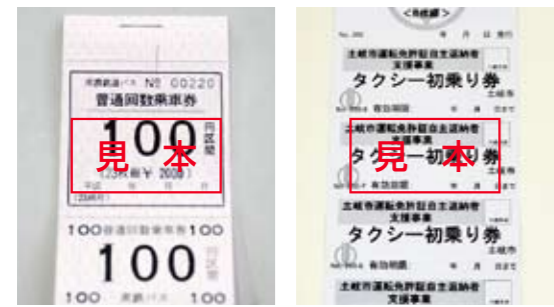
運転免許証自主返納者支援制度

■対象者

- 次の全てに該当する方
- ▷土岐市に住民登録をしている満65歳以上の方
- ▷有効期限内の全ての運転免許証を自主返納した方
- ▷市税の滞納がない方

■支援内容

- 次のいずれかを選択してください。
1. バス回数券(100円券23枚つづり2冊)
※東鉄バス・市民バス・のってこ共通で使用できます。
 2. タクシー回数券(初乗り券8枚つづり1冊)
※1回の乗車で1枚のみ使用できます。差額は現金で支払いください。



■手続きの流れ

1. 多治見警察署または多治見運転者講習センターで運転免許証を自主返納します。
2. 手続き後、次の書類を受け取ります。
「申請による運転免許の取消通知書」
「運転経歴証明書」または「取消しとなった運転免許証」
3. 申請書に必要事項を記入し必要書類を添付して、市役所生活環境課または支所で申請してください。

■持ち物

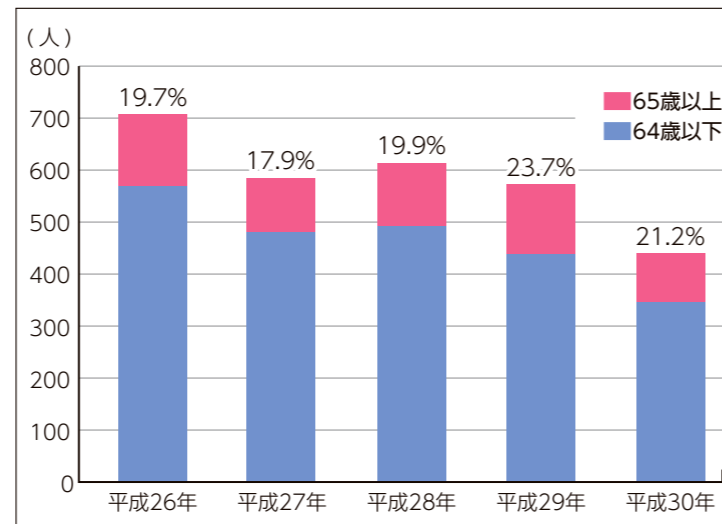
- 申請書(市役所生活環境課または支所にあります)
- 「申請による運転免許の取消通知書」の写し
- 「運転経歴証明書」の写しまたは「取消しとなった運転免許証」の写し
- 委任状(本人が申請する場合は不要)
- 印鑑(認印可。申請書・委任状に押印済みの場合は不要)

■申請期限など

- ※申請は、運転免許証を返納してから3カ月以内に行ってください。
- ※運転免許証の期限切れ(失効)は、対象外です。
- ※バスまたはタクシーの回数券は、申請後10日程を目安に郵送します。

問 生活環境課 ☎④1328

人身事故の件数と高齢運転者が第一当事者となった割合(多治見警察署管内)



多治見署管内で発生した人身事故件数はここ5年、減少傾向にあります。一方、そのうち65歳以上の高齢運転者が事故の第一当事者となった割合は平成29年、30年と連続で20%を超えており、相対的に見て増加傾向にあると言えます。

において、高齢者講習や認知機能検査などを実施してはいますが、年齢により一概に線を引くことは難しいでしょう。

大切なのは家族の気付き

高齢運転者による交通事故が発生した際、例えば軽微な接触事故を1年で数回起こしているなどの予兆が見られる場合があります。自身の感覚とのずれにより、認知や運動機能の低下はなかなか自覚しづらいものですが、そのさまざまな予兆は日常生活の中にも徐々に現れます。その予兆をいち早く察知し、適切な対

処につなげることができれば、ご家族の皆さんです。一歩間違えば車は鉄の塊。大切なご家族が事故の被害者にも、あるいは加害者にもなる可能性があります。運転免許の自主返納は一つの選択肢であり、サポカー(高齢者向け安全装備車)の購入など、高齢者の方の心情をくみながらよく話し合い、一緒に考えていただきたいと思います。

支援制度の利用を

土岐市でも、平成30年度より自主返納者への支援制度が始まっています。市内の65歳

以上の自主返納者は平成29年が115件だったのに対し、平成30年は170件と大きく増加しています。

自主返納をした場合、身分証としても使用できる運転経歴証明書の交付を受けることができます。高齢者などの場合、交付手数料が県交通安全協会から全額助成されます。

運転免許証を更新せず失効させてしまうと、運転経歴証明書の申請はできません。運転をやめられる場合は、失効前に自主返納の手続きを願います。



CHAPTER 3 自主返納という選択

高齢者運転は悪ではない

多治見署管内の人身事故発生件数は、近年減少傾向にあります。一方で、65歳以上の高齢運転者が人身事故の第一当事者となった事故件数の割合は増加傾向にあります。高齢者交通事故対策は、今後重点的に力を入れて取り組むべき課題です。

ここ数年、ニュースや紙面をにぎわせるようになった高齢運転者によるブレーキとアクセルの踏み間違いや、逆走などの報道により「高齢者運転は悪」といったイメージを持たれている方も少なくないかもしれません。確かに、加齢による認知機能や運動機能の低下により、交通事故の発生リスクは大きく高まります。しかし、その症状の出方には個人差があり、免許更新時

重大事故の加害者になるリスクも

運転免許証の自主返納には、家族の理解と協力が不可欠



多治見警察署交通第一課 藤田 勝敏 課長

近年、高齢者の交通事故に関する報道が注目を集めています。県内でも、交通死亡事故の犠牲者の6割以上を高齢者が占めるという状況が続いています。多治見警察署の藤田交通第一課長に、高齢運転者の交通事故の現状や、運転免許証の自主返納制度などについて伺いました。

自主返納に関する相談や問い合わせは多治見警察署 ☎②0110)まで

※第一当事者…交通事故が発生した際、その事故に関わった人の中で一番過失の大きい人

CHAPTER 公共交通 を利用する 4

市が運行する交通機関である市民バスと予約あいのリタクシー「のってこ」について紹介します。

市民バスは、主に路線バス（民間バス）の運行がないもしくは少ない地域を中心に運行しています。ダイヤは土岐市駅を発着する電車や、路線バスとの接続を考慮したものとなっています。

のってこは、市民バスとは違い、予約があった場合のみ運行するデマンド型タクシーです。市民バスの運行が行き届かない地域を補う形で運行しています。現在、肥田線や泉・土岐津線など6系統があり、各地域からウエルフェア土岐や総合病院を結ぶ路線と直結していないため、駅への利用は乗り継ぎが必要です。



土岐市内バスマップ 2019年5月1日現在

市民バスやのってこの時刻表は市役所または各支所などに設置しています。また、市ホームページでもご覧になれます。



市ホームページ

※停留所は主なものだけを表示しています。
※のってこは定路線型ではないため表示していません。

公共交通の未来は

公共交通を取り巻く環境は全国的に非常に厳しいものとなっており、土岐市においてもそれは例外ではありません。公共交通施策を行う上では、それぞれの地域の特徴にあった細かな交通体系の構築が求められます。現在、市の運行する公共交通は市民バスとのってこの2種類ですが、6月からは駄知町において新たな地域交通運行をスタートさせます。その他の地域についても、地域の状況、ニーズにあった交通づくりを民間交通事業者や、住民の皆さんと協議しながら進めていきます。

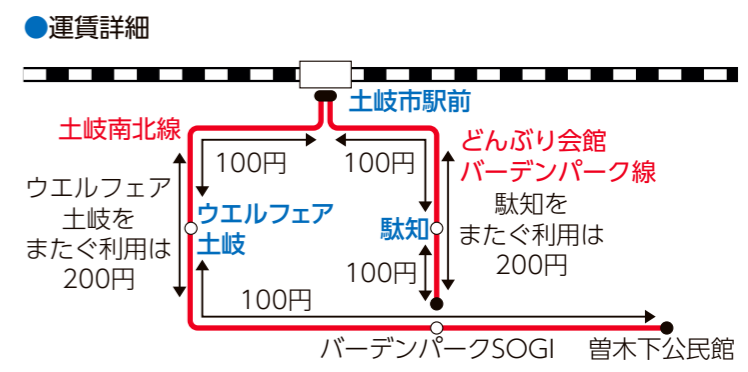
公共交通に対する需要や考え方は、世代や生活環境などで大きく異なります。公平性を担保しながらの利便性の確保と、財政負担とのバランスは非常に難しい問題ですが、交通弱者の移動手段を確保するため、決して絶やすことはできません。



市民バス



一乗車100円(大人・子ども)
※小学校就学前の幼児は無料
※「駄知」または「ウエルフェア土岐」をまたぐ利用は200円



●運賃詳細

●市民バスと東鉄バスの乗継割引
▷東鉄バス200円券と市民バス100円券を200円で購入できます。

市民バス 100円券	+	東鉄バス 200円券	→	200円
---------------	---	---------------	---	------

▷市民バスと東鉄バスを乗り継ぐ場合に使用できます。

のってこ (予約あいのリタクシー)



一乗車300円(大人・子ども)
※小学校就学前の幼児は無料
※相乗りの人数による運賃の変動はありません。

年末年始を除く平日に利用できます。決められた停留所間で利用可能で、予約がない場合は運行しません。

- 利用方法
- 1. 予約の電話**
予約締切の時間(出発時刻の30分前)までに電話をします。
氏名、電話番号、乗る停留所、降りる停留所、乗りたい便、人数を伝えます。
 - 2. 停留所で待機**
余裕をもって停留所に出掛けましょう。
「のってこ」のマグネットが貼られたタクシー車両が到着します。

予約はこちら ☎5500
受付時間 午前6時30分～午後6時 (一週間前から予約可)
※のってこの車内でもお帰りや次回の予約ができます。

市民バスやのってこの定期券・回数券を下記の場所で販売中です。詳しくは市ホームページをご覧ください。
▷東濃鉄道(株)土岐営業所 (☎8760) ▷東鉄観光(株)土岐支店 (☎3501)